舞鶴市の産前・産後支援体制について（各機関ができること）

資料２

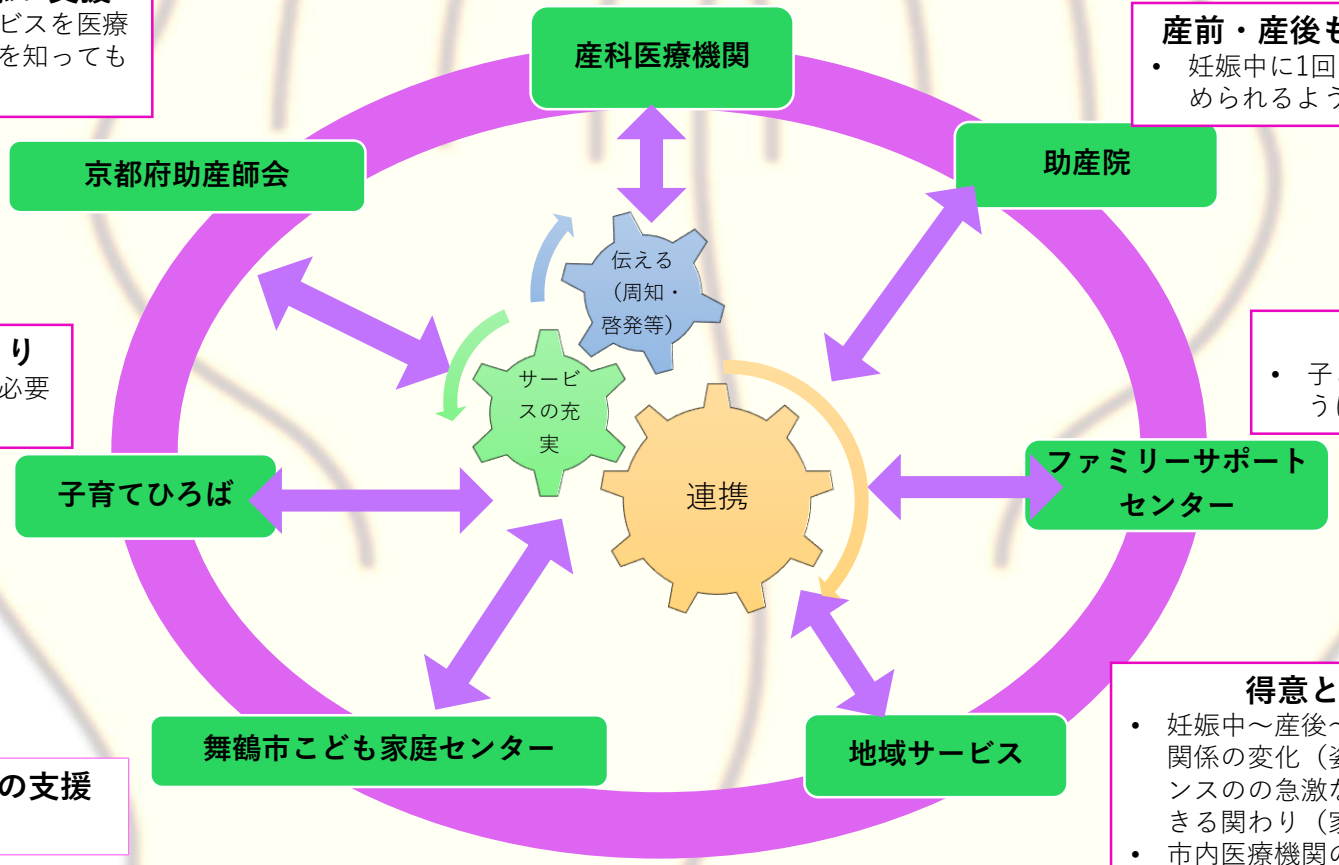
安全に健やかに出産・育児が出来る入口の支援

妊娠期
- バースプランをもとに全員個人面談⇒サポート体制を確認し、必要者は継続面談、他機関連携（産後の生活のイメージ、育休取得のタイミング、産後のサービス）

産後
- 1か月健診後も母達が集える場（お茶会・雑談会）から子育てひろばなど地域につなげる（入院中の妊産婦同士が繋がる場づくり）

妊娠から産後まで地域で支える寄り添い支援
- 支援機関間でチームを組んで、複数のサービスを医療機関の妊産婦に周知に行く・スタッフの顔を知ってもらう・人と人をつなげる

産前・産後も安心して子育てできる寄り添い支援
- 妊娠中に1回でも関わりをもち、母乳ケアを妊娠中から始められるようにする。



暮らしを見守り、仲間・居場所づくり
- 医療機関やこども家庭センターと連携し必要なサービスにつなげる

家族と子の直接援助・サポート
- 子どものサポート・送迎⇒親子を送迎できるように（例：助産院に母子で行ける）

得意とする分野で女性の身体を守る
- 妊娠中～産後～子育て中の体と心の変化および生活や家族関係の変化（姿勢・内臓・筋肉・脳・骨格・ホルモンバランスのの急激な変化・自律神経の乱れ）に気付くことができる関わり（家族間で共有できる事）
- 市内医療機関のセラピストとの連携・育成・派遣

すべての妊産婦・ハイリスク者への支援及び体制整備・予算の確保

資料４

全ての妊産婦とその家族が必要なサポートを選択し、しあわせを感じながら安心して産み育てることができる舞鶴

	①医療機関、地域との連携強化	②妊娠期からの切れ目ない支援	③産後サポートの充実
ハイリスク	• 関係機関が集まる場の設定 • 支援者同士のネットワークづくり	• 精神的ハイリスク者の把握と産後うつ予防の強化	• 産後ケア（個別型・短期入所）の充実 • ファミサポのオプション追加（親子送迎） • グリーフケア
ポピュレーション		• 全ての妊婦に面談実施（医療機関、地域、こども家庭センター等） • 地域の支援者が医療機関で妊産婦へサービスの周知	• 産後サポートメニューの充実

産科医療機関

京都府助産師会

子育てひろば

こども家庭センター

地域サービス

ファミリーサポートセンター

助産院